

平成21年度第1回 生涯学習教育研究センター運営委員会議事要旨

- 日 時：平成21年4月27日（月） 10：20～11：45
- 場 所：地域国際学習センター3階 304教室（学習相談室）
- 議 題：平成20年度事業報告、平成21年度事業計画
- 出席者：井上講四（生涯学習教育研究センター長）、背戸博史（生涯学習教育研究センター教授）、後藤武俊（生涯学習教育研究センター講師）、安藤由美（法文学部教授）、吉田悦治（教育学部准教授）、玉城政信（農学部教授）
- 列席者：平啓介（研究・国際交流担当理事）、大濱善秀（地域連携推進課長）、比嘉達志（地域連携推進係 主任）玉城優里（地域連携推進係 係員）

◆平理事挨拶

生涯学習は教育における非常に重要な役割を担っている。教員免許証更新講習に関しても生涯学習の一環として重要である。しかし大学として非常に大変な仕事なので現在の体制の中で協力し合ってやっていく必要がある。これからの当センターに期待している。

◆生涯学習教育研究センター規則の改正について

生涯学習教育研究センター規則の改正について、資料1-1に基づき背戸委員より説明がなされた。

全学的に委員会の見直しがかかっており、基本的には委員会を縮小してスリム化する方針（法文・観光から1名、熟生圏は除く）で議論が進んでいるが、生涯学習はキャリア形成の場であり、産業界・職業人の再教育ということを重点化していきたいと考えており、そのために観光産業科学部と共催で実施してきた事業が多々あるため、改めて当該学部からも委員を選出して欲しい。観光産業科学部の平敷学部長には内々に承諾をいただいている。また、大学教育センターとも事業が密接に関係しているため（公開授業、高大連携事業などは共催）、当該センターからも委員の選出をお願いしたい。

質疑応答・意見等

- ・大学教育センターからの選出はどのように考えているのか。
→専任の教員か併任の教員かというところは、大学教育センター長の判断になると思うが、今回の改正案では専任の教授または准教授を想定している。
- ・3号に明記すると縛られてしまうので、「各学部から1名」にして大学教育センターは4号で処理してしまう方が動きやすいのではないか。
→大教センターと観光産業科学部からも運営委員を選出して欲しいという趣旨を維持しつつ、事務で多少文言を修正して法規担当と調整の上、教育研究評議会にあげるということでした承された。

◆平成21年度事業計画

平成21年度事業計画について、資料2-1から資料2-6に基づき背戸委員、後藤委員より下記のとおり報告がなされた。

・公開講座

例年に引き続き、専門コースと一般コースに分けて開催する。専門コースの強化・充実を図っていききたい。また、本センター独自企画で昨年度に引き続き強化テーマを設定した講座、名誉教授シリーズ、新規で南の学シリーズ、離島での公開講座を実施する予定である。

・公開授業

受講者が固定しているため、夜間時間帯開講の授業科目を充実させる、定額料金制を試行的に実施する等、新たな受講者獲得のための様々な工夫を行っている。

・琉大21世紀フォーラム

今年度より、生涯学習教育研究センターの主催で展開していくことになった。現在のところやり方は変わらないが、具体的に今後どのように進めていくかはこれから詰めていく予定である。

・西原町民文化講座

西原町・琉球大学・沖縄キリスト教学院大学の共催事業として実施しており、昨年度で4年目となる。今まで、講座のコンセプトが無かった。三者で企画を練って西原町に必要なものを特別に組んでいこうということで、三者で話し合う場を持ち検討した結果、町民のニーズと大学のシーズのすり合わせを行うため、西原町立図書館来館者向けのアンケート調査を実施することとなった。アンケートの結果を踏まえて、再度三者で協議し、今期のテーマを決定する予定である。

・地域社会との共同研究

研究に関しての地域連携の強化を図っていききたい。沖縄県社会教育委員会と共同研究を行い、研究機能を当センターが補うことで当該委員会の活動をサポートする。また、宮古地区社会教育関係者との共同研究を実施し、その成果としてその土地の生活課題などを組み込んだ公開講座を立ち上げていく予定である。

・生涯学習に関する調査研究

研究部分の強化を図っているところである。昨年度より科学研究費補助金を3年間申請しており、現在2年目である（専任教員2名とも）。

・研究紀要『生涯学習フォーラム』の刊行

平成20年度の事業報告を掲載する関係で、刊行が遅れているが、現在迅速に編集作業を進めているところである。

・センターHPの充実

現在、公開講座及び公開授業の情報を随時掲載しており、今後は講座の様子を伝えることを目的として、動画の配信も実施する予定である。また、HPからの申込・問合せを可能とするメールフォームを設立し、受講者の利便性を図った。

・中期計画プロジェクト達成経費

総合情報処理センターと連携して、e-learningの本格的なシステム開発を行う計画をしており、現在中期計画プロジェクト達成経費に申請中である。

◆第二期中期目標・計画

第二期中期目標・計画について、資料2-7に基づき背戸委員より説明がなされた。

社会人への学習機会の提供と、地域との連携という2つの観点から、当センターとしての中期計画を設定している。

質疑応答・意見等

・公開講座の専門コースは、学外の講師が多いがどういうメリットがあるのか、また、それぞれの学部で実施できるのではないかな。

→学外の方を講師とすることは、大学として高度な学習機会を社会に提供するという観点から意義があると考えている。また、それぞれの学部は学生に対する教育・研究を、本センターが社会人に対する教育を担っていると考えてもらってよい。

・公開講座及び公開授業への協力依頼が各学部均等に知れ渡っているか。また、公開講座等に協力するメリットがわからないため、依頼が来ても躊躇してしまうという状況。実際に公開講座や授業を実施した先生方がやってみてどうだったかということ、まとめて学内にフィードバックし、協力するメリットが目に見えるようにすれば、協力して下さる方も増えるのではないかな。

◆その他

井上センター長より、運営委員の先生方には、今後施設の利活用なども含め、単に会議に参加していただくだけでなく、イベント等を開催する際には是非ご協力頂きたい、また、少なくとも年に4回は運営委員会を開催したいので、平理事にもできるだけ出席して頂きたいとのお願いがあった。

以上